

うおーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.43 **新春**



contents



薪割り体験／京都市北区雲ヶ畑（関連記事p.4）



ツアーの説明をする推進員／丹後（関連記事p.5）



夏休み省エネチャレンジ表彰式（関連記事p.6,7）

- 2・3** **特集**
IPCC第5次評価報告書が伝えること
-まだ間に合う、でも早急な大幅削減が必要-
- 4** 京都市近郊の森林資源と消費者を**結ぶ**取り組み
-京都市北区雲ヶ畑での薪販売の仕組みづくりと
薪ポータルサイト「まきくも」-
- 5** **第6期 地球温暖化防止活動推進員**
府内各地で活躍中！ part6
地域の環境再発見
-丹後2市2町の推進員・行政との連携による取組-
- 6・7** **活動レポート**
夏休み省エネチャレンジ2014
表彰式を開催しました
京都環境フェスティバル2014に
出展しました（京都パルスプラザ）
- 8** **お知らせ**
新しい**タブレットクイズ**が完成しました！
「おとなのための知って得するエコクイズ」



京都府地球温暖化防止活動推進センター

Kyoto Center for Climate Actions

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

IPCC 第5次評価報告書が伝えること -まだ間に合う、でも早急な大幅削減が必要-

[IPCCの統合報告書が承認されました。この意義や内容について、気候ネットワークの山本元さん（※推進員）、田浦健朗さんにご寄稿いただきました。]

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第5次評価報告書が2013年9月から順次公表され、2014年10月に統合報告書が承認されました。地球温暖化に関する最新の研究成果がまとめられたこととなります。この報告書では、「①温暖化が起きていることは疑う余地はないこと」や、「②人が原因である可能性が極めて高い」ことが発表され、抜本的な対策を進めないと温暖化による非常に危険な影響が起これることが警告されました。

急激な気温上昇とその影響

第5次評価報告書では、地球の平均気温は1880年から2012年までの間に0.85℃上昇したことが示されました（図1）。0.85℃の気温上昇は、それほど大変なことでは無いと思うかもしれませんが、これまでこのような急激な上昇はありませんでした。地球の長い歴史における自然の変動による気温の変化と比べてみましょう。白亜紀に起こった温暖化は数百万年かけて5℃の上昇（100年あたり0.000025℃）でした。この時には、すべての生物が適応または移住できました。5600万年前の暁新世／始新世温暖化極大期には、数千年かけて5℃の上昇（100年あたり0.025℃）がありました。この時には、海底の一部の生物が絶滅しましたが、地上の生物はほとんど適応または移住できたとのこと。これに比べると132年間で0.85℃の上昇というのは、本当に危険なスピードであることがわかります。

この0.85℃の上昇によって、既に大きな影響があらわれています。世界中で、異常な高温や集中豪雨、干ばつ、台風の強大化、海面上昇などが起こり、その被害も深刻になっています。国内でも最高気温の更新や集中豪雨の頻発があり、被害が

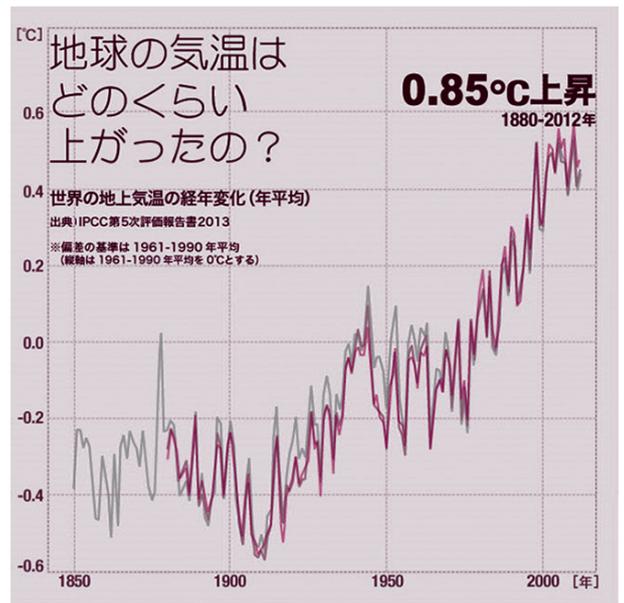


図1 JCCCAホームページより

増大しています。一つひとつの災害について全て地球温暖化が原因であると確定はできませんが、「温暖化が起これば悪影響のリスクが高まる」との指摘に一致することが現実になっています。

地球温暖化の主要因は人間活動によるCO₂濃度の上昇です。工業化前の大気中CO₂濃度は280ppmで安定していましたが、産業革命以降増加しつづけ、今年4月には、北半球で400ppmを超えてしまいました。IPCCの報告でも、近年のCO₂濃度は過去80万年で最高になっていると伝えています。

今後はどうなるの

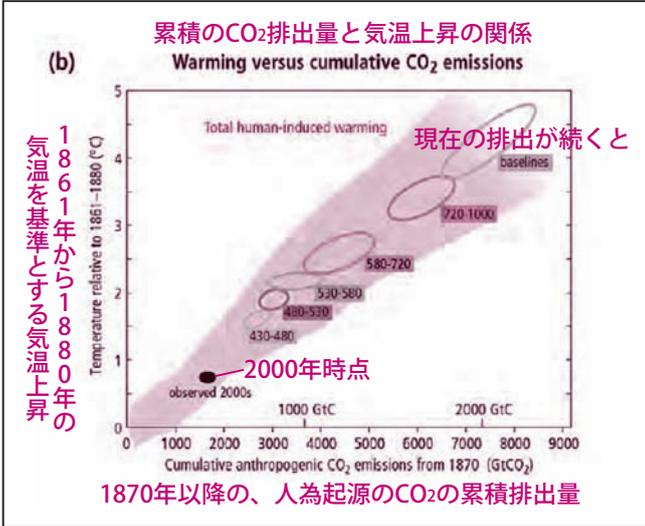


図2 (IPCC第5次統合報告書政策決定者向け要約より)

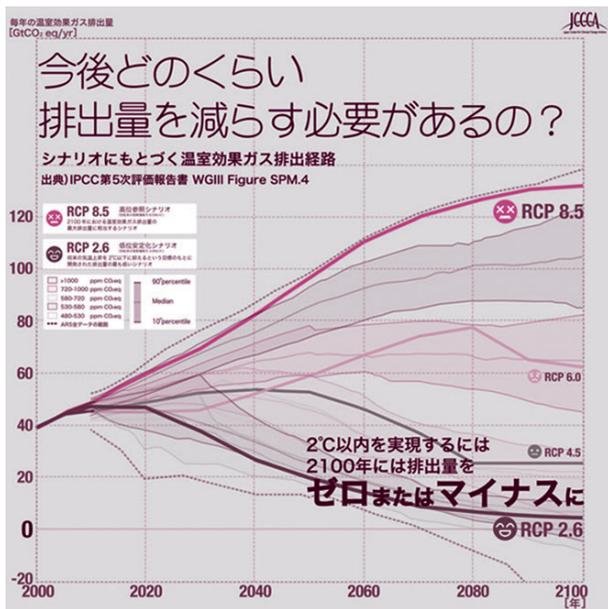


図3 JCCCAホームページより

今後はどうなるのでしょうか。IPCCは、いくつかのシナリオを想定してシミュレーションを行っており、温室効果ガスを大量に排出し続けるシナリオでは、2081年から2100年の平均気温は、1986年から2005年の平均気温を基準として、約4°C（最大4.8°C）上がるとされています。前回の報告書では最大6.4°Cとされていたので、改善されたのかとも思いますが、そうではありません。シナリオの考え方そのものが変わったことによる変化です。

気温上昇が一番低いシナリオ、つまり世界中で最大限に対策を行った時の気温上昇は、同期間に約1°C（0.3~1.7°C）とされています。世界では、気温上昇を工業化前から2°Cを超えないようにするという目標があります。もし、気温上昇を1°C程度に抑えることができ、すでに上昇した0.85°Cとあわせても1.85°C程度の上昇に抑えることができ、温暖化による危険な被害を相当減らすことができます。

では、この目標を達成するにはどれくらいの対策を行えばよいのでしょうか。報告書には、新たな知見として「地球の平均気温の上昇は、CO₂の累積の総排出量と比例する」ことが盛り込まれました（図2）。過去に排出してきた量も含めて約800GtCを超えると2°Cの気温上昇を超える可能性が高くなります。既に約530GtCを排出してきましたので、残りは300GtC程度しかありません。現在は、毎年約10GtCを排出していますので、このままではあと30年程で上限に達してしまいます。上昇を1°C程度に抑えることができるRCP2.6シナリオを達成しようとするれば、2050年頃には現在の排出量から半分に減らし、その後はゼロまたはマイナスにする必要があります（図3）。

1GtC（炭素換算10億トン）＝約3.7GtCO₂（二酸化炭素換算約37億トン）

私たちはどうすればいいのでしょうか

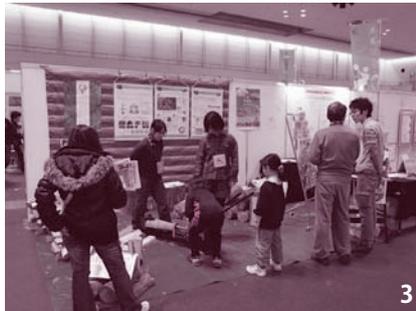
IPCCの報告書では、対策の選択肢が示されていますが、どうすべきかは示されていません。将来を選択するのは私たちです。今後、世界の人口は増加し、経済発展にあわせてエネルギーの使用が増えていく国も多くあります。そのような中、世界全体で目標を達成するには、まずは私たち先進国が率先して大幅削減を実践する必要があります。そして、その成果を他の先進

国と共有し、途上国にも波及させていくこととなります。みなさんご存知のように、ドイツなどは目標を明確にし、エネルギーの大転換を行いながら、雇用を増やして地域を元気にしています。日本でも、これまでどおり省エネや温暖化防止教育を続けていくことが必要ですし、これをベースに、低炭素型の産業・社会づくりに向け、政策の舵を大きくきる必要があります。

京都市近郊の森林資源と消費者を結ぶ取り組み
 京都市北区雲ヶ畑での薪販売の仕組みづくりと薪ポータルサイト「まきくも」



1



3



2

1 薪割り体験 (11/22)
 2 広葉樹林の整備体験 (10/26)
 3 環境フェスでのポータルサイト「まきくも」PR

東 日本大震災以降、全国的に薪ストーブの導入台数は増えているようで、京都市内においても同じ傾向が見られます。薪ストーブが増えると、同時に薪の需要も増えるわけですが、京都における薪ストーブユーザーはどこから薪を入手しているのでしょうか。過去のうおーみんぐで、京都市左京区吉田山で薪ストーブユーザーが薪割りに取り組む「薪ストーブ友の会」を紹介しましたが、こちらの活動の参加者のように「薪割りを楽しみたい」「自分で薪をとりにいくので安く入手したい」といった方は少なくありません。

薪の需要が増える一方で、京都における薪の供給体制はどうなっているのかというと、ぼちぼちですが京都市近郊の広葉樹林を整備して、整備によってでた木材を薪にして販売する個人・団体が増えています。ただし、一つ一つの生産者の活動が小規模であり情報発信もほとんどされていないので、薪の需要と供給が、京都において結びついていないというのが現状です。

当センターでは、この需要と供給をマッチングさせるために、今年の秋から冬にかけて、京都市北区雲ヶ畑で、雲ヶ畑の森林資源（薪）と消費者を結びつけるための「薪割り体験イベント」を4回開催し、100名以上の方に広葉樹の伐採や薪割りを体験していただきました。雲ヶ畑の生産者

の方々は、単に薪を買ってもらいたいだけではなく、「雲ヶ畑で薪割りをして、そのまま保管しておける仕組み」を提案されています。自宅の庭での薪割りや薪の保管は、騒音やスペース、防犯が問題になる場合があるため、うまくニーズとマッチすれば雲ヶ畑地域を訪れる人が増える、地域活性化の仕組みになると期待しています。

また、イベントの開催と同時に関西圏の薪に関する情報（薪の販売、薪で調理するお店、キャンプ場など）を発信するポータルサイト「まきくも」（運営：流域圏デザインプロジェクト）と連携し、雲ヶ畑に限らず京都の薪生産者の情報発信を行いました。

薪を欲しいという方のライフスタイルは多種多様であり、また、薪を生産する方の販売形態も様々です。これらを結びつけ、薪利用の地産地消の促進によるCO2排出削減に繋がられるよう、次年度以降も活動を継続していきたいと考えています。



ポータルサイト「まきくも」 アドレス : makikumo.net



「今 回のツアー、バスでまわることにしたから、みんなが車で参加するのに比べてCO₂を131kg-CO₂も削減できたんですよ。

一般の人も乗車可能な「ぐるっと丹後周遊バス（ぐるたんバス）」の中に、推進員 味田佳子さんの声が聞こえます。これは、11月23日に行われた「丹海バス『ぐるたんバス』で行く 知ろう つなごう 丹後の暮らし」的一幕。一行は、途中下車して、伊根の舟屋を中まで見学。推進員の中山康成さんが「最近、高潮などが心配ではないですか」と尋ねると、「昨年とはかく、一昨年

は、これまで経験したことのないくらい潮が高かったなあ」との返事が返ってきたそうです。その後も、途中下車を繰り返して、地元産食材を使ったお昼ご飯を食べて地産地消に関する話を聞いたり、神社に行き、宮司さんから、地元の歴史やイチョウの色づきなどについての話を聞いたり。総勢約20人が、丹後の環境を見つめ、大いに楽しんだのだとか。

このツアーを実施したのは「丹後の豊かな環境づくり推進会議（以下、推進会議と記載します）」。宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町の丹後2市2町の行政と住民らが連携

して平成24年に立ち上げた組織で、推進会議の委員の多くは地球温暖化防止活動推進員に委嘱されています。

メンバーがボランティアでアイデアと労力を出し合って、手作りで企画を行うのが推進会議のスタイル。今回も、委員である推進員らが企画を思いつき、「みんなが車を出したり、わざわざバスを仕立てたりして行ったら、CO₂を増やしてしまう。せっかく『ぐるたんバス』が走ってるんで、これに乗ったらええわな」と、1日バスを購入して途中下車を繰り返すツアースタイルを選んだのだとか。



バスの中で説明する推進員



舟屋の説明



丹後環境シンポジウム

推 進会議が前身団体の頃から、まさに手作りで続けてきた「丹後環境シンポジウム」と「少年少女エコ体験ツアー」も、近年では恒例行事となってきました。

昨年度の「丹後環境シンポジウム ～食と環境について考える～」には、なんと300名もの参加者が集まり、会場に入りきれない人もでるほどの大賑わい。環境落語、環境保全活動に取り組む地域住民の映像上映などに加え、二市二町の小学生による発表がありました。子どもたちは、それぞれの環境保全活動について、寸劇を交えるなどの工夫を凝ら

して発表しました。小学生が発表するとなると、その保護者も会場に駆けつけて話を聞いてくれます。多くの人に情報を伝えるという観点から、この手法は他地域でも参考になりそうです。ただし、言うは易し、行うは難し。日曜日に小学生に発表してもらうとなると、事前調整が大変だったはず。それを実践できるところが、推進会議が持つネットワークのチカラなのでしょう。

昨年度の「少年少女エコ体験ツアー」には、24名が参加。ソーラークッカーづくりを体験しました。指導したのは、推進会議の委員であり、

推進員でもある川内弘睦さん。子どもたちにも分かりやすく説明してくださいました。

今年度も、冬から春にかけて、丹後環境シンポジウムと少年少女エコ体験ツアーが計画されているそうで、次はどんな手作り企画が飛び出すのか、とても楽しみです。

地域の環境を見つめ、魅力を再発見する。温暖化防止を前面に振りかざすのではなく、素敵な地域を作ろうと呼びかけ、担い手をつなげ、取り組みを広げる。まさに低炭素型地域づくりの担い手である推進員の活躍が、丹後で続いています。

report

1

2014/12/14

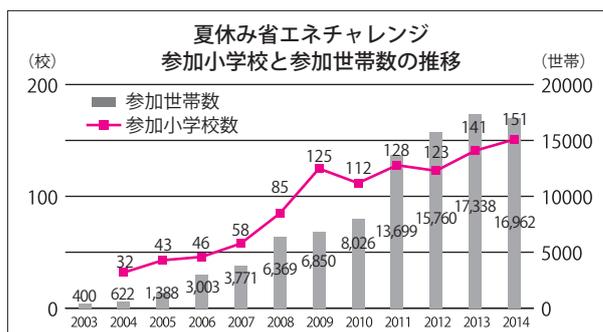
夏休み省エネチャレンジ2014 表彰式を開催しました

当センターでは、2014年度も、夏休み省エネチャレンジ事業を実施しました。この事業は、小学校とその保護者に夏休みの1週間省エネを実践してもらう取り組みです。

多くの皆さまのご協力の結果、2014年度は、参加小学校が過去最高の151校、16,962世帯に取り組んでいただくことができました。これは、家族人数で考えると約5万人以上の方にご参加いただいたこととなります。

夏休み省エネチャレンジの実施にあたって、優秀な結果をおさめた小学校を表彰する「学校参加キャンペーン」も実施。12月14日に京都環境フェスティバル2014のステージイベントで表彰式を行い、京都府知事からの賞状が授与されました。

また、キャンペーンにあたっては、エスペック株式会社、大阪ガス株式会社、株式会社京セラソーラーコーポレーション、ケニス株式会社より、学校での環境教育に活用できる教材を特賞としてご提供いただき、各部門の優秀校1校ずつへ贈呈されました。



表彰式参加者
全員で記念写真

優 秀 校

[二酸化炭素削減量部門]

二酸化炭素削減量第1位
約1 t 661kg (1,661kg)
城陽市立久世小学校

[平均得点部門]

平均得点数第1位
約91.0点
綾部市立西八田小学校

[参加児童率部門]

参加児童率第1位
※全校全員で取り組んだ学校
綾部市立上林小学校
綾部市立西八田小学校
井手町立井手小学校
宇治市立笠取小学校
宇治市立笠取第二小学校
木津川市立恭仁小学校
木津川市立城山台小学校
長岡京市立神足小学校
南丹市立鶴ヶ岡小学校

(五十音順)
の計9校

特 賞 受 賞 校

井手町立井手小学校（参加児童率部門）

「エスペック賞」
ゴーヤ先生の授業と
みどりのカーテン



綾部市立西八田小学校（平均得点部門）

「大阪ガス賞」
燃料電池実験セット



城陽市立久世小学校（二酸化炭素削減量部門）

「ケニス賞」
手回し発電機
10個セット



長岡京市立神足小学校（参加児童率部門）

「京セラ賞」
太陽光発電
体験キット



report

2

2014/12/13,14

京都環境フェスティバル2014に 出展しました（京都パルスプラザ）

今年の環境フェスティバルのブースでは、木質バイオマスエネルギーの地産地消をPRするために、京都市近郊で薪の生産販売を行っているグループといっしょに薪割り体験を行いました。手動式薪割機を使うと子どもでも簡単に割ることができるため、大勢の方楽しんでいただくことができました。他にも、新しいタブレットクイズやチャートでお勧めの暖房がわかるコーナー、夏休み省エネチャレンジの結果の展示などを行いました。

「環境学習体験コーナー」では、大きなハンバーガーの模型を使ったフードマイレージ教室や、和紙や糸巻きを利用したソーラーランタン作りなども担当しました。



薪割り体験の様子



ソーラーランタン
作りの様子

お知らせ Information

新しいタブレットクイズが
完成しました！

「おとなのための 知って得するエコクイズ」

昨年度完成したタブレットクイズ「家庭の省エネクイズでGO！」を使ってくださったみなさんのご意見をもとに、新しく別のタブレットクイズ「おとなのための知って得するエコクイズ」を作成しました。

どちらも推進員等には貸出可能です。イベント内容や会場の状況に応じてぜひご活用ください！

【 2つのタブレットクイズの違い 】

| | 家庭の省エネ クイズでGO! | おとなのための 知って得するエコクイズ New |
|--|---|--|
| スタート画面 | | |
| クイズ&アンケートの数 | 5種類 設定変更できない | 7種類 どの問題を何問表示するの かを設定することができる |
| 問題のテーマ ◎ = 必須項目 (設定での変更不可) □ = 選択可能な項目 (設定画面で選ぶことができる) | [照明◎] [給湯◎] [交通◎] [暖房◎] [順位◎※] ※簡易光熱費診断。平均世帯の光熱費と参加者の光熱費を比較することができます | [冷蔵庫□] [保温□] [給湯□] [冷房□] [暖房□] [車□] [買い替え(家電)□] [簡易光熱費チェック◎※] ※平均世帯の光熱費と参加者の光熱費を比較することができます |
| お渡しするもの | 結果シート その場で印刷してお渡します | 提案カード 8種類のカードの中から、参加者に合った内容のカードを数枚お渡します |

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うーみんぐ」

(平成 27 年新春号 平成 27 年 1 月発行 (年 4 回発行))

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター

(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)

理事長：郡嶋 孝

〒 604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町 41 番 3

TEL : 075-803-1128 FAX : 075-803-1130

URL : <http://www.kcfca.or.jp> E-mail : center@kcfca.or.jp

編集：木原浩貴 川手光春 竹花由紀子 西澤浩美 淵上佑樹 浅井薫

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！

年会会費 正会員 (個人) : 2,000 円 正会員 (団体) : 3,000 円

準会員 (個人) : 2,000 円 準会員 (団体) : 3,000 円

賛助会員 : 10,000 円

詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率 100% の再生紙に、植物油インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。

